

報告事項ク

平成24年度第1回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について

平成24年度第1回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について、別紙のとおり報告します。

平成24年11月20日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成24年度第1回鳥取県教育審議会学校等教育分科会の概要について

平成24年11月20日
高等学校課
小中学校課

- 1 日時 平成24年11月6日(火) 午後1時30分～4時30分
- 2 場所 鳥取県立図書館 大研修室
- 3 参加者 委員：11名
事務局：生田教育次長、山根参事監兼高等学校課長、山本小中学校課長
牧野小中学校課義務教育主査、御船高等学校課高校教育企画室長 他
- 4 議事 今後の県立高等学校の在り方について
- 5 報告 今後の幼児教育の在り方について(鳥取県幼児教育振興プログラムの改訂)
- 6 会長、会長職務代理選任
会長は、出席委員全会一致で矢部委員に決定
会長職務代理は、矢部委員が小枝委員を指名され決定

7 委員からの主な意見

(1) 今後の県立高等学校の在り方について

- ・地元の企業が求める人材を養成し、また、企業が必要とする技術力を高める高校を作ってほしい。
- ・将来への明確な目標があって進路選択できる生徒は少ないと思う。生徒は、試験の点数でどの高校に入学できるかという観点で高校を選択する。将来の職業選択と高校の選択がマッチしているとは言い難い状況。
- ・中学校の進路指導の中で、それぞれの高校の特色を中学校の教員がしっかり理解して、生徒や保護者に指導していくことが大事である。
- ・総合学科は自由度が高い部分がある反面、普通科との違いがわかりにくいなど不明確な部分もある。総合学科の進路の現状について、生徒や保護者にきちんと情報提供する必要がある。
- ・総合学科が設置されたときの社会情勢は現在では大きく変化してきており、当初の理念のままであれば存続は難しいと思う。
- ・企業の方から、総合学科を卒業したけれども、社会で生きていくための知識や技能が生徒に身につけていないということをよく聞く。高校は卒業すればよいのではなく、卒業した後に社会でどのように生きていくのか、また、生徒の将来をどのように保障するのかを考えながら高校教育を進めていく必要がある。
- ・総合学科は様々なことを学べるという利点を生かして、この総合学科であれば何ができるかということを明確に示す必要がある。
- ・今後の高等学校の在り方を考える上で、学校は地域の核となっているので、地域の特性も考慮しながら学科のバランス等を検討していく必要がある。
- ・中山間地域において、学校がなくなることは地域の衰退に繋がるので、県教育委員会としても支援する体制を作ってほしい。
- ・現在の激動の時代の中、自ら課題を解決しながら生きていく力を養成するため、幼稚園、小学校、中学校、高等学校と段階的に「たくましさ」というものを身につけさせる必要がある。
- ・総合学科の系列だとか、専門の学科がたくさん用意されているのはいいと思うが、将来に対

してビジョンが持てない生徒へ、明確な目標を持たせるような指導の在り方を検討していく必要がある。少子化の状況を考えると、生徒の選択肢として多くの学科や系列があるのはどうかと思う。

- ・ 将来、社会で生きていくということをしっかり捉えて、また、自分の将来を見据えて学ぶ意欲というものを幼少期から養成していくことが重要。
- ・ 各学校ごとの教育目標に応じた教育課程を作っていくことが必要で、その教育目標は、時代、地域、生徒・保護者のニーズをどのように捉えるかにかかっている。
- ・ 大都市では、内容を細分化して専門学科高校を多く作っても定員割れすることはないが、鳥取県のように中山間地域が多い地域では同じようにはいかない。鳥取県の地域性を考慮して、果たしてどれだけの高校が必要かを考えていくこと。鳥取県の将来ビジョンに沿った形で高校の在り方を検討していく必要がある。
- ・ ニーズが多様化しているという話があったが、多様なニーズには多様性で対応するものではなく、シンプルでも多様に分岐できるような教育を構築することが多様性の源になると思う。

【次回の会議に向けて会長からの依頼事項】

①各学校の現状、課題、特色等がわかる資料

②普通科、専門学科、総合学科の教育課程の違いがわかる資料

[理由] 高校の在り方を検討する際は、学校の外と内のそれぞれの視点が必要であるため

(2) 今後の幼児教育の在り方について（鳥取県幼児教育振興プログラムの改訂）

- ・ めざすこども像に「遊びきる」という言葉が使われていた。遊びきれない、遊び込めない状況のある中で、このプログラムによって教職員が共通理解して保育にあたっていきたい。国の幼保一体化の動きは揺れているが、どういう形になっても質の高い幼児教育を進めていこうと思っている。プログラムは、幼児教育を進める土壌であり、「遊びきる子ども」という像は、「遊びを通して育つ・学ぶ」という幼児の特性を示している。
- ・ 小1プロブレムは、特別支援が必要な子どもの保護者をどう理解させるかが課題である。湯梨浜町では、教育委員会の指導主事が保小の連携を保っている。保育所は小学校と関係が持てないので、指導主事がつないでいる。保育所から小学校へソフトランディングさせたい。
- ・ 園に併設された子育て支援センターは、未就園児親子を対象にしており、若いお母さんにオムツの替え方や離乳食の作り方なども指導している。昔と違い祖父母や近所の助けのない保護者の相談を受けたりする。子どもとの向き合い方が分からない保護者、子どもがかわいく思えない保護者に、子育ては楽しいということ、この時期しかないことを保護者に返している。これまで地域や周りで伝えてきたことが伝わっていない状況がある。お弁当の作り方や洗濯の仕方を教えたりすることもあるが、サービスが過剰にならないようにしている。
- ・ 女性もキャリアとして働くようになった現在、「子育ては専門の人がするもの」という考え方が出てきた。子育て支援の場には、子育て教室としての役割を求めている。
- ・ 保護者が子育ての主体であることをしっかりと示してほしい。特別な支援が必要な子どもについては、専門的な目で見ても中高校へ引き継いでいく必要がある。
- ・ 市町村の子育て支援をどこまでするのかであるが、民間の妨げにならないよう保育時間のこれ以上の延長は考えていない。
- ・ 児童虐待については、地域が支えていくことであり、保健師が解決にあたっている。学校には、学校で解決しようとしないうこと、抱え込まないことを伝えている。

鳥取県教育審議会学校等教育分科会 出席者一覧

区 分	氏 名	職 名	備考
鳥取県教育審議会 学校等教育分科会 委員	いけ うち かつ ひこ 池 内 勝 彦	鳥取県高等学校PTA連合会長	
	いし 石	日吉津村長	
	かや ぎ たか し 栢 木 隆 志	米子市立後藤ヶ丘中学校長	
	こ えだ たつ や 小 枝 達 也	鳥取大学地域学部教授、附属小学校長	欠席
	たか はし ち え 高 橋 千 枝	鳥取大学地域学部准教授	欠席
	ひら まつ たみ お 平 松 民 雄	米子北斗中・高等学校長	
	まつ もと きよ はる 松 本 清 治	県立倉吉西高等学校長	
	まる やま とも こ 丸 山 智 子	県立倉吉養護学校長	
	もり た きよ こ 森 田 清 子	北栄町立北条こども園長	
	や べ とし あき 矢 部 敏 昭	鳥取大学副学長	
	やま ぐち あさ こ 山 口 朝 子	鳥取市教育委員	
	やま もと かず よ 山 本 和 代	鳥取県PTA協議会理事	
	やま もと まさ と 山 本 正 人	鳥取市立若葉台小学校長	

区 分	氏 名	職 名	備考
鳥取県教育委員会 事務局	いく た ふみ こ 生 田 文 子	教育次長	
	やま ね たか まさ 山 根 孝 正	参事監兼高等学校課長	
	やま もと まさ し 山 本 正 史	小中学校課長	
	み ふね よし だ 御 船 斎 紀	高等学校課高校教育主査兼高校教育企画室長	
	まき の あつ し 牧 野 厚 志	小中学校課義務教育主査兼係長（指導担当）	